

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名： **次世代人材育成センター**

部局長名： **佐野 寛**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 近隣の教育委員会等と連携し、公開講座や科学研究コンテスト等を実施することで、地域の科学教育に貢献する。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 開催した公開講座には、高校生だけでなく地域の一般からの参加も多数あり、目標を達成できた。特に科学研究コンテストは、高校生の研究成果発表の場として県内高校に認知され、参加高校数および応募者も増加しており、地域から開催の要望は大きい。今後、同様なコンテストの開催が可能か否かを検討する必要がある。
③-2 全学の組織目標との関連 高大接続を推進するために、高校生と保護者、高校教員などを対象にした公開講座や科学研究コンテストを企画、実施する。	③-2 大学全体への貢献 大学教員が公開講座を担当したり審査委員となることで、直に高校生と接することで、高校生の理解度や考え方を理解し、入試を含めた高大接続事業の参考となった。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標 公開講座の三回以上の実施。 高校生を対象とした、科学コンテストの一回以上の開催。	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 7月15日、1月6日～1月8日、2月12日に高校生、高校教員、及び保護者を含む一般を対象にした公開講座を実施した。 8月27日、小学生及び保護者を対象とした公開科学教室「科学大好き岡山クラブ」を実施した。 1月21日、科学コンテスト「集まれ！科学への挑戦者」を実施した。
④センター業務	
④-1 目標 科学技術振興機構グローバルサイエンスキャンパス事業である「科学先取りグローバルキャンパス岡山」を運営実施する。 意欲と能力のある高校生を選抜し、「研究能力」、「コミュニケーション能力」、「科学リテラシー」、「科学者倫理」等を指導し、次世代を担う科学人材を育成する。 能力の高い高校生を対象にした、新しい科学教育方法と能力評価方法を開発することで高大接続に寄与する。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 高校生を対象にした「科学先取りグローバルキャンパス岡山」を引き続き実施した。岡山県、香川県、鳥取県、広島県、高知県に加え、新しく島根県と愛媛県からの受講者も増えた。日曜の実施を増やす等の対応で、遠隔の高校生や私立の高校生が参加しやすい実施を考慮した。海外研修の参加希望者が大きく増えたため、選抜に漏れたが意欲の高い受講生へのフォローアップなど、グローバル化を目指した幅広いプログラムの構成を考慮する必要がある。
④-2 全学の組織目標との関連 科学先取りグローバルキャンパス岡山」の運営を通して、高校から大学へと繋がる一貫的な科学教育を県教育委員会や高校と協力しながら実施することで、実質的な高大連携を推進する。	④-2 大学全体への貢献 各学部から多数の講義が提供され、各部局の研究内容を時間をかけて高校生に直接詳しく伝えることが可能となり、大学入学への動機付けができた。 受講した高校生の複数名がグローバルディスカバリープログラムなどの岡山大学へ進学する等、高大接続に寄与している。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 科学先取りグローバルキャンパス岡山において、意欲と能力の高い75名以上の生徒を対象に年間20回以上の講義などの実施。 高校生の科学的能力を評価する方法の開発と試行を行い、その結果を広く公開する。	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 科学先取りグローバルキャンパス岡山の受講生として、先取り基盤コース94名、先取りグローバル発展コース生26名を選抜して、年間50コマ(1コマ90分)以上の講義を実施した。 ルーブリックによる受講生評価をおこない、それを活用して面談を実施した。 開発したプログラム内容とその成果を、科学技術振興機構の主催するグローバルサイエンスキャンパス連絡協議会や国内科学教育関連の学会セッションで報告した。
⑤管理運営領域	
⑤-1 目標 受講生の個人情報に関する管理を適切に実施する。	⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 受講者名簿ファイルは、パスワード保護で管理していることを確認した。
⑤-2 全学の組織目標との関連 個人情報等の適切な管理に関連した、法令遵守の徹底を図る。	⑤-2 大学全体への貢献 法令遵守に関してメールで各構成員に通知し、会議の席でも口頭によっても確認した。
⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標 個人情報の取り扱い状況に関して、年2回以上の点検を実施する。	⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 各構成員が自主点検を実施し、名簿などの管理状況を3ヶ月毎に確認した。
【総括記述欄】	
<p>各部局の協力により、円滑に事業を実施することができた。次世代人材育成センター運営会議を通じて、先取り基盤コースに各学部から多くの講義提供を受けることができ、岡山大学で研究されている学問分野の特徴を幅広く伝えることができた。また、発展コースにおいて、海外の高校生とインターネット遠隔地会議システムを介した協働研究を準備し、最終発表会を海外研修で実施するなど、次世代のグローバルな科学人材育成を目指したプログラムを開発・実施することができた。委託事業の終了する平成30年以降に、得られた知見をどの様に活用するかが今後の課題である。</p>	